ア 哥前十一〇三　哥一〇七、
ウ 廿二四〇十五、五〇廿三
サ 使十六〇廿三、ガ前一五〇
廿、廿三　默一〇五
キ 約一〇十六、三一、廿四　西
二一九、三六、十二、十四、十五、十六
ユ 哥一〇十四
メ 哥後五〇十八
ミ 哥後五〇十六
ヒ 哥一〇十八、二、十二、十九、
モ 路一〇十五、十六
哥一〇四、
五〇廿七　徴前四〇七、多
二〇十四　徴前一四
セ 約三〇十七　西二〇七
ロ 西一〇六
イ 羅十一〇十五
ハ 羅一〇十七
使一〇十八　哥後三〇六、
一、五〇十八　哥三〇
四　西一〇廿五　徴前三〇
七
ニ 羅五〇三　哥後七〇四
ホ 哥一〇十三、十三
ヘ 哥一〇廿三
ト 哥後一〇五、六、哥三〇十
哥二〇十一　加二〇七
チ 哥後九〇十九　西一〇廿三
哥十五〇十九
ヌ 羅十六〇十七
ル 哥三〇九
哥十二〇十一　徴後一〇十
ヲ 哥十二〇十四　哥一〇七、三
ワ 羅九〇廿三
カ 徴前一〇八
ヨ 使廿一〇廿七、廿一
タ 哥後十一〇二　哥五〇廿七
レ 前十五〇十
ソ 哥一〇十九、三〇七、廿
ツ 西二〇一　西一〇廿九　徴
イ 哥後二〇二
ロ 哥後一〇十
ハ 西三〇十四　西一〇九
ニ 哥三〇十四
ホ 哥前一〇八　西一〇六、七
ヘ 哥十六、十八　徴後一〇
十三　哥一〇十四、五〇六
西一〇六、十八
ト 哥前五〇三　徴前二〇十七

ア 哥前十四〇四十
サ 使廿二四〇十五、五〇廿三
使十六〇廿三、ガ前一五〇
廿、廿三　默一〇五
キ 約一〇十六、三一、廿四　西
二一九、三六、十二、十四、十五、十六
ユ 哥一〇十四
メ 哥後五〇十八
ミ 哥後五〇十六
ヒ 哥一〇十八、二、十二、十九、
モ 哥一〇十五、十六
路一〇七十五　徴前四〇七、多
二〇十四　徴前一四
セ 約三〇十七　西二〇七
ロ 西一〇六
イ 羅十一〇十五
ハ 羅一〇十七
使一〇十八　哥後三〇六、
一、五〇十八　哥三〇
四　西一〇廿五　徴前三〇
七
ニ 羅五〇三　哥後七〇四
ホ 哥一〇十三、十三
ヘ 哥一〇廿三
ト 哥後一〇五、六、哥三〇十
哥二〇十一　加二〇七
チ 哥後九〇十九　西一〇廿三
哥十五〇十九
ヌ 羅十六〇十七
ル 哥三〇九
哥十二〇十一　徴後一〇十
ヲ 哥十二〇十四　哥一〇七、三
ワ 羅九〇廿三
カ 徴前一〇八
ヨ 使廿一〇廿七、廿一
タ 哥後十一〇二　哥五〇廿七
レ 前十五〇十
ソ 哥一〇十九、三〇七、廿
ツ 西二〇一　西一〇廿九　徴
イ 哥後二〇二
ロ 哥後一〇十
ハ 西三〇十四　西一〇九
ニ 哥三〇十四
ホ 哥前一〇八　西一〇六、七
ヘ 哥十六、十八　徴後一〇
十三　哥一〇十四、五〇六
西一〇六、十八
ト 哥前五〇三　徴前二〇十七

チ 哥前十四〇四十
リ 彼前五〇九
ヌ 徴前四〇一　羅三
ル 哥二〇廿一、三〇十
テ 七　西一〇十三
廿、廿六〇八　羅十六〇十七
十三〇九　哥五〇六　來
ワ 太十五〇三　加一〇十四
西二〇十九
カ 加四〇三九　西二〇廿
タ 約一〇十四　西二〇十九
レ 哥一〇廿一　徴前三〇
廿二
ソ 約一〇十六
ツ 申十〇十六、廿〇六　耶四
〇四　羅二〇廿九　雅三〇
子 羅六〇六　哥四〇廿二　西
三〇八、九
ナ 羅六〇四
ラ 使二〇廿四
ム 哥一〇十九、三〇七
ウ 西二〇一
非 哥一〇一、五、六、十一
哥二〇十五、十六
オ 哥六〇十二
クオ 哥三〇十五　詩六十八〇十
八　雙五十三〇十二　太十
一〇廿九　路十〇十八、十
一〇廿二　哥四〇八、來
二〇十四
ヤ 羅十四〇二十七　哥前八
〇八
マ 羅十四〇五　加四〇十
ケ 羅十四〇三、十、十三
フ 來八、五九〇九、十〇一
コ 西二〇廿三
エ 西二〇四
テ 約十二〇三　提前一〇七
ア 哥四〇十五、十六
サ 羅六〇三、五、七〇四、六
加二〇十九　哥二〇十五
キ 西一〇八
ユ 加一〇三、九
メ 雙九、十三、太十五〇九
多一〇十四
ミ 哥前四〇八
ヒ 西二〇十八

れ肉體い爾曹と離をると雖ども靈い爾曹と偕に居て喜び爾曹が次序あるとキリストを信ずる信の堅固を見なり　六爾曹すでに主キリストイエスを承たれも彼に在て行むべし　七なんぢら根を彼わおき彼に在て德を建また教を受たる所わ從ひて信仰を堅くし此を益　大にして感謝せよ○　八なんぢら慎むべし恐くいキリストわ循まず人の遺傳と世の小學に循ひ空言なる理學をもて爾曹れ心を奪んろれ神れ充足る德い悉く形體をなしてキリストわ住り　九彼い諸の政と權威の首おり爾曹かれわ在て全備する事を得おり　十一おんぢら彼わ在て手をもて爲ざる割禮をうく即ち肉の體を脫去ところのキリストの割禮なり　十二爾曹バプテスマを受て彼と偕に葬られ亦死より彼を甦らしゝ神の大能を信ずるに因て彼と偕わ甦らされたり　十三おんぢら前にい諸の罪と身に割禮なきとわ因て死たる者なり然ど神爾曹をして凡の罪を赦し彼と偕わ生しめ　十四かつ手わて錄しゝ所の我儕わ攻る規條の書すなたち我儕わ逆ふものを塗抹これを中間より取去り釘を以て其十字架に釘たまへり　十五また政事を勅者と權威ある者を滅し彼等を衆人に示しキリストに由て勝誇れり○　十六是故に或い飲こと食こと或い節期あるひい月朔あるひい安息日の事により人をして爾曹を議せしむること勿れ　十七此等い皆來らんとする者の影にして其眞の形いキリストに屬り　十八謙卑ることゝ天使を拜することゝに因て爾曹の褒美を詐奪んとする人に其褒美を奪るゝ勿れ斯れ如き人い未だ見ざる者を窺ひ己の心に從ひて妄に誇り首に屬ことを爲ざる也　全體この首により諸の節と維をもて相助け相聯おり神に育られて長おり　十九もし爾曹キリストと偕に死て世れ小學より離たらんにい何ゆ世に在て日を送る者れ如く人の命と教わ循ひ捫る勿れ嘗ふ勿れ觸ふ勿れといふ律法の下におるや此等れ禁じたる者い凡て人これを用れも滅るなり　二十一此等の規條い自ら縱肆にして拜することを爲かつ誣身かつ身を惜ざるに由

い萬物より先にあり萬物かれに由て存ことを得なり　十八教會い彼の身體にして彼い其首なり彼い元始にして凡の事につき長とならん爲に死の中より首に生れしものなり　十九ろい父すべての德を以て彼に滿しめ其十字架の血に由て平和をなし萬物すなたち地上に在もの天わ在る者をして彼に由て己を和ゲしむる事い是ろの聖旨わ適ふことなれも也　二十一夫爾曹いもと惡行を行ふに因て神わ遠かり心にて其敵となれる者なりしぞ　二十二神今キリストの肉の身體をもて其死により爾曹をして己を和ゲせ潔く玷なく咎なくして己れ前に立しめんとす　二十三もし若なんぢら信仰に止り其基を定めかつ堅して福音の望より移ずバ如此せらるゝことを得べし此福音い即ち爾曹の聞し所なり且すでわ天下の萬人に傳れり我パウロろの役者と作たり○　二十四今われ爾曹の爲わ受る苦を喜び又わが肉體をもてキリストの體すなたち教會のために其患難の缺たる所を補ふ　二十五われ爾曹の爲に神の賜ふ所の職に循ひ此教會の役者となりて徧く神の道を傳んとす　二十六この道い歷世歷代隱れたる奧義なりしぞ今その聖徒に顯れたり　二十七神聖徒をして異邦人の中に顯れし奧義の榮のゆかに豐なるを知しめんとし給へり此奧義い爾曹の中に傳へしキリストなり彼い爾曹の望む所の榮の望なり　二十八我儕かれを傳へ諸人を勸め諸般の智慧をもて諸人を教へ諸人をしてキリストの中わ完全を得て神の前に立しめんとす　二十九我これぞ爲に大能をもて我が衷に働く者の運用わ循ひ力を竭して勞する也

第三章

我なんぢら及びラヲデキヤにをる人々また我が肉躰にある面を未だ見ざる人の爲に我心を勞することと何等なるを爾曹ぞ知んことを望　二わが心を勞するい彼等ぞ心愛に因て一になり疑を懷ざる全き親悟の富を得かつ父なる神とキリストの奧義を知て安慰を得んことを欲する也　三智慧と知識の蓄積い一切キリストに藏れある也　四誰わても巧言を以て爾曹を欺くこと無らん爲に我これらの事を言り　五夫わ

て智慧ある者の如く見れども實に尊き者に非ずたゞ肉體の慾を充足する也

第三章　既に爾曹キリストと偕に甦りたれば天に在ものを求むべし　キリスト彼處に在て神の右に坐し給へり　二　爾曹天に在ものを念ひ地に在ものを念ふ勿れ　三　夫なんぢらは死し者にて其命はキリストと偕に神の中に藏れ在なり　四　我儕の命なるキリストの顯れんとき我儕も之と偕に榮の中に顯るゝ也○　五　是故に爾曹の地にある肢體すなわち姦淫、汚穢、邪情、惡慾および貪婪を殺すべし貪婪は即ち偶像を拜することも也　六　此等の事に由て神の怒は從はざる者に臨るなり　七　爾曹も曩に斯のごとき人れ中に日を送りし時は此等の惡事を常に行へり　八　然ど爾曹今は凡て此等の惡事および恚憤、忿怒、暴戾をさり謗讟、醜言を爾曹の口より去べし　九　なんぢら已に舊人と其行を脫て新人を衣たれば互ゐに謊を言ふかれ　十　この新人は愈新になり人を造りし者の像に循ひて知識に至るなり　十一　此の如きに至りてはギリシヤ人とユダヤ人あるひは割禮ある者と割禮なき者あるひは夷狄あるひは奴隸あるひは自主の別なし夫キリストは萬物の上に在また萬物れ中にあり○　十二　是故に爾曹神に選れて聖潔かつ愛せらるゝ者と爲たれば慈悲、矜恤、謙遜、柔和、忍耐を衣よ　十三　なんぢら互に容忍をなし若し人に責べき事あらば之を恕せキリスト爾曹を恕し給へる如く爾曹も然すべし　十四　この諸れ事の外に愛を加へよ愛は衆德の帶なり　十五　爾曹キリストの賜ふ平安をして其心を主らしめよ爾曹一體に在て此平安に至るべき召を蒙れり爾曹恩に感ずべし　十六　キリストの道をして爾曹の心を存て充足しめ諸の智慧により詩と歌と靈に感じて作れる賦とを以て互に相教へ相勸め恩に感じて心の中に神を讚美すべし　十七　爾曹の爲所の諸事あるひは言あるひは行みな主イエスの名の爲に之をなし彼に由て父なる神に感謝すべし○　十八　妻なる者よ其夫に從ふべし此は主にある者の爲べき

事なり　十九　夫なる者よ其妻を愛すべし苦を以て之を待ふ勿れ　二十　子たる者よ爾曹すべての事に親に從ふべし是主の悅び給ふ所なり　二一　父なる者よ爾曹の子を怒らする勿れ恐くは其氣餒ん　二二　僕なる者よ凡のことに肉體に屬る主人に從ふべし人を悅ぶする者の如くたゞ眼前の事を務ることなく誠心を以て神を畏れて從へ　二三　なんぢら何事も人に事るが如せず主に事る如く心より之を行ふべし　二四　なんぢら何事も人に事るが如せず主に事る如く心より之を行ふべし　二四　なんぢらは主なるキリストに事ふべし　二五　不義を行ふ者は亦その不義の報をうく主は偏親たまふ事なし

第四章　主人なる者よ爾曹も亦天に主ある事を知て義に從ひ公平を以て其僕を待ふべし○　二　恒に祈禱をなし怠らずして感謝と共に之を爲べし　三　また神われらに道を傳ふるの門を開き我儕をしてキリストの奧義を語らしめわが言べき所の如く此奧義を顯さしめ給へんことを我儕の爲に祈るべし我この奧義の爲に繫れたり　五　なんぢら機を窺がひ智慧をもて外人に交るべし　六　爾曹の言つねに恩を用ゐ且鹽を以て調和べし然て如何して各人に答ふべき乎を知ん○　七　わゞ愛する兄弟忠なる役者われと偕に主に事る僕テキコわゞ事を悉く爾曹に告知せん　八　我かれを殊に爾曹に遣すは彼をして爾曹の事を知なんぢらの心を慰め去めん爲なり　九　また忠ある我ゞ愛する兄弟爾曹の中の一人なるオチシモを彼と偕に遣せり彼等この處の事を以て悉く爾曹に告知せん　十　我と偕に繫るゝアリスタルコ及バルナバの甥マコ爾曹に安を問このマコの事に就ては爾曹すでに命を受たり彼もし爾曹に至らば之を接べし　十一　ユストと名るイエス爾曹に安をとふ割禮を受し者のうち惟この三人のみ我と偕に神の國の爲に勞けり我かれらに由て安慰を得しなり　十二　爾曹の中の一人にてキリストイエスの僕なるエパフラス爾曹に安を問彼は恒に爾曹の爲に力を盡て祈禱をな

し爾曹が完全を之心を堅して立すべての事神の旨に遵ふんことを願へり　十三 われ彼ゞの爾曹ふよびラオデキヤヒエラポリにある者のために甚く心を勞することを證す　十四 我儕ゞの愛する醫者ルカ及びデマフ爾曹に安を問　請なんぢらラオデキヤの兄弟等とヌンパフ及び其家にある教會に安を問　十五 爾曹すでに此書を讀べ之を亦ラオデキヤ人の教會に讀せ爾曹も亦ラオデキヤより來る書をよめ　十六 アルキポに曰なんぢ主に在て受し所の職を慎みて盡すべしと　十七 我パウロ親手なんぢらに安を問なんぢら我の繫縛を念へ願くは恩寵爾曹と偕に在ることをアーメン　十八

新約全書哥羅西書　終

新約全書使徒パウロテサロニケ人に贈れる前書

第一章　パウロとシルワノとテモテ書を父なる神ふよびイエスキリストに在テサロニケ人の教會に贈る　願くは我儕の父なる神ふよび主イエスキリストより爾曹恩寵と平康を受よ　二 われら祈禱の中に爾曹の事を陳て常に爾曹衆人の爲に神に感謝す　三 これ爾曹が信仰に由て行ひ愛に由て勞し我儕の主イエスキリストを望むに因て忍ことを我儕の父なる神の前にて斷ず念ふが故なり　四 神に愛せらるゝ兄弟よ又これ爾曹の撰れたる事を知に緣てなり　五 我儕の福音なんぢらに來りしい只言に由てのみならず能により聖靈に由また篤き信仰に由てなり卽ち我儕なんぢらの中に在て爾曹の爲に如何におこなひし乎を爾曹の知ごとし且なんぢら大なる難の中に聖靈の喜樂をもて道を受われら及び主に效ひ　六 マケドニヤとアカヤに在すべての信者の模楷となれり　七 主の道爾曹より響しい第にマケドニヤアカヤのみならず而して亦なんぢらが神に向る信仰すべての處に廣をり是故に我儕何事も言に及ばず　八 蓋かれら我儕の事を語りて我儕いかなる狀にて爾曹の中にいり且なんぢら偶像をすて神に歸して活る眞神に事へ　九 うの子の天より臨るを待と言ゞ也ろの子い卽ち神の死より甦らしゝ所のイエスにして我儕を來らんとする怒より拯ふ者なり　十

第二章　兄弟よ我儕ゞの爾曹の中に入しことの徒然ならざるを爾曹みづから知　二 ゑんぢら知る如く我儕さきにピリピにて苦を受また辱を受たり然ど尙なんぢらに至り我儕ゞの神に賴て憚る所なく神の福音を大なる紛爭の中にて爾曹に語れり　三 我儕の勸い惑より出るに非ず汚より出るに非ず亦詐を以てせず　四 われら神の撰をえ福音を傳ることを託られたるに因て語るなり此い人を悅ぶするに非ず我が心を察し給ふ神を悅ぶする也　五 なんぢら知が如く我儕いつも諂ふ言を用ずまた事に藉て貪ることをせず神これが證をなす

イ 哥後一〇十九　撒後一〇一　使前五〇十二
ロ 弗一〇二
ハ 羅一〇八　弗一〇十六　門四
ニ 撒前二〇十三　約六〇廿九　加五〇六　撒前三〇六　撒後一〇三、十一　雅二〇十七
ホ 羅十六〇六　來六〇十一　西三〇十二　撒後二〇十三　可十六〇廿　哥前二〇四、四〇廿
ヘ 羅十六〇六　來六〇十一　西三〇十二　撒後二〇十三　可十六〇廿　哥前二〇四、四〇廿
ト 撒前二〇一、五、十、十一　弗二〇三
チ 撒後三〇七　西二〇二
リ 哥後六〇六　弗二〇三
ヌ 撒前二〇一、五、十、十一　西二〇二
ル 撒後三〇七
チ 徒五〇四十一　弗十〇卅四　哥前四〇十六、十一〇一　來十一〇一
ワ 哥前四〇十六、十一〇一　來十一〇一
ヲ 撒前二〇十七　撒前二〇十四　撒後三〇九
カ 羅一〇十八
ヨ 羅一〇八　撒後一〇四
タ 撒前二〇一　加四〇八
レ 哥前十二〇一　羅二〇七　歌三〇廿　多二〇十三　撒後三〇十二　默二〇七
ソ 羅二〇七　歌三〇廿　多二〇十三　默二〇七
ツ 徒一〇十一　撒前四〇十六
ネ 徒二〇廿四　羅五〇九　撒前五〇九
ナ 太三〇七
イ 撒前一〇五、九
ロ 徒十六〇廿二　撒前一〇五
ハ 撒前一〇五
ニ 徒十七〇二　西二〇一
ホ 腓一〇卅　哥後七〇二
ヘ 撒後二〇五　哥後七〇二
ト 撒後一〇十六　撒前一〇十
チ 哥前九〇廿七　加二〇七　一十一
リ 加一〇十
ヌ 多一〇三
ル 羅八〇廿七　羅八〇廿七
ワ 羅一七〇三　羅八〇廿七　羅一〇十
ヲ 羅一〇十　羅一〇十　羅一〇十
カ 羅一〇十　羅一〇十
ヨ 羅一〇九
タ 羅一〇九

ワ 勸五〇四十一、四十四、十一〇四十三 提前五十七
カ 哥前九〇四、六、十二、十八 撒後三〇九、十一、十三〇十 撒後三〇九 門八、九
ヨ 哥後十一〇九、十二〇十 三、十四 撒後三〇八
タ 哥前九〇一、二、五
レ 哥前二〇三、九〇廿二 哥後二〇四 提後二〇廿四
ソ 羅一〇四 提後二〇廿九
ツ 哥後十二〇十五
子 哥後十二〇十三、十四
ナ 哥後十二〇十五
ラ 哥後十二〇十三、十四 哥前四〇十二 徒廿〇廿四 哥前四〇十二
ム 撒前一〇五 撒後三〇七
ウ 哥前一〇九 撒前五〇廿四 撒後二〇十四 提後二〇九
井 哥前四〇一 腓一〇廿七、西一〇十 撒前四〇一
ノ 太十〇四十 加四〇十四
オ 撒後三〇三
ク 加一〇廿二
ヤ 來十〇廿三、十四
マ 徒十七〇五、十三
ケ 徒二〇廿三、三〇十五、五
フ 太五〇十二、廿三〇廿四、廿七 路十三〇廿三、廿四
コ 徒七〇五十二
エ 弗三〇八
ヒ 路十一〇五十二 徒十三〇五十、十九、十七 〇廿、十四〇五、十八、十二、十八 九〇九、廿二〇廿二、廿二 創十五〇十六、太廿三〇廿
テ 太廿四〇六、十四 西二〇五
キ 哥前五〇三
サ 撒前三〇十
ユ 羅一〇十三、十五、〇廿二 哥後一〇十四 腓二〇十
メ 六、四〇一
シ 箴十六〇廿一 哥前十五〇廿三 撒前二〇十七、廿二、十二
ミ 箴十六〇廿一 撒前三〇五 十三 默一〇七
イ 撒前三〇五
ロ 徒十七〇十五
ハ 羅十六〇十一 哥後一〇十六 十 哥後一〇十六
ニ 弗三〇十三

我儕キリストの使徒にて人に重ぜらるべしと雖も或い爾曹にも或い他人にも人に榮耀を求ず　乳母ろの赤子を育ふ如く我儕なんぢらの中に在て柔和にせり　如此なんぢらを慕ひて第に神の福音のみならず己の生命をも爾曹に予んことを喜べり是なんぢらい我ごの愛する者なれば也　兄弟よ爾曹ゐれらの勞と苦を忘る爾曹のうち一人をも累ませざる爲に夜晝工を作て神の福音を爾曹に宣傳へたり　我儕なんぢら信ずる者に對て何等かり潔く義く缺ることと無して行へるを爾曹も神も證をなす　十一　爾曹知るわれら父が其子を待ふ如して爾曹おの〳〵に對ひ其國と其榮に召き給ふ神に合て行ことを勸また慰め亦敎たり　是故に我儕神に向ひ爾曹が我儕より神の道を聞しとき之を人の道とせず神の道として受たるを斷ず感謝す此道い誠に神の道にして爾曹信ずる者の中に働くなり　十四　兄弟よ爾曹ユダヤの中なるキリストイエスにある神の敎會に效る者となれり蓋かれらユダヤ人に苦められし如く爾曹も己が國の人々わ苦められたれば也　十五　ユダヤ人い主イエスと己が預言者たちを殺しまた我儕を窘て逐出せり彼等い神の心わ合ずしかすべての人に逆へり　十六　また我儕が異邦人に救を得させんとて語るを阻り此の如く彼等い常に己が罪を盈しむ神の極て大なる怒かれらに臨れり〇　十七　兄弟よ我儕暫時おんぢらに離れ居れ面のみなり心に非ず切わ願ひて急ぎ爾曹の面を見んとせり　十八　是故わ我儕なんぢらに至らんと欲へり殊に我パウロ之を願ふこと一次のみおらず兩次おりしかどサタン我儕を妨げたり　十九　我儕の望また喜また誇の冕い誰ぞや我儕の主イエスキリストの臨らん時りの前にて爾曹も此ものと爲にわらず乎　二十　ゐれ我儕の榮と喜い爾曹なり

第三章

是を以て我忍ぶこと能ずず故に獨アテンスに留ることを意に定め　二　キリストの福音を傳へ神と偕に働く我儕の兄弟テモテを爾曹に遣し〻也これ爾曹を固し又爾曹の信仰の爲わ爾曹を慰め　三　一人もこの患難に搖されざらしめんため也ゐれ患難い我儕に定れることなるを爾曹自ら知り　四　われら爾曹と偕に在し時われら患難に遭んとすることを預じめ爾曹に告たり今果て其如く成り爾曹知ところの如し　五　是故に我忍ぶこと能ずず爾曹れ信仰を知ん爲に人を遣し〻なり試る者の爾曹を試みて我儕の勞の徒然おらんことを恐れたる也　六　今テモテ爾曹より我儕に來りて爾曹の信仰と愛との嘉音を聞せ又おんぢら常に我儕を切々に念わるらに遇ことを欲ひ我儕ごの爾曹に遇てとを欲ふごの如しと告たり　七　是故に兄弟よ我儕さまざまれ禍害と患難との中に爾曹の信仰に因て安慰を得たり　八　ゐい爾曹もし堅く主に屬ば我儕こゝに由て生べけれゝ也　九　われら爾曹れ事に就て我儕の神の前に歡ぶ所の大なる喜により爾曹れ爲に如何なる感謝を以て神に報んや　十　晝夜切に願ふい爾曹の面を見んと爾曹れ信仰の足ざる所を補ん事也　十一　願くい神すなゝち我儕の父みづから我儕の主イエスキリストと偕に我儕を導きて爾曹に至らしめ給ん事を　十二　また願ふ主爾曹の愛を增かつ滿しめ爾曹をして互に愛し衆の人を愛すること我儕が爾曹を愛する如ならしめて　十三　爾曹の心を堅くし我儕の主イエスゐの諸の聖徒と偕に來らんとき爾曹をして我儕の神なる父の前に潔して責べき所なからしめん事を

第四章

兄弟よ我儕かく神に願へば主イエスに賴て亦おんぢらに求め且勸む爾曹すでわ我儕の敎を受いかに行ひて神を悅むすべきを知たれば益之わ進むべし　二　蓋わるち主イエスわ由て如何なる誡を爾曹わ授けしかを爾曹知むおり　三　神の旨い爾曹の潔こと即ち姦淫をせず　四　各々己の器を得て之を潔く貴くおして用ることを知　五　神を知ざる異邦人の如く情慾を放縱わせず　六　又この事わついて兄弟を欺きかつ害せざらんことを要め給ふ凡て斯る惡事を行ふ者わ主報をなし給ふなりわれら曩わ爾曹わ告かつ證せしが如し　七　ゐ

ホ 徒九〇十六、十四〇廿二、廿一、廿三〇廿三、廿七、〇十一 哥前四〇九 提後三〇十二
ヘ 徒七〇廿一 撒後一〇廿一
ト 撒前二〇廿一
チ 哥前七〇五 哥後十一〇三 加二〇二、四〇十一 腓二〇十六
リ 撒前二〇十一
ヌ 徒十八〇一、五
ル 腓一〇八
チ 哥後一〇四、七〇六、十三
ワ 腓四〇一
カ 撒前一〇二
タ 羅一〇十、十一、十五〇 提後一〇三
レ 撒前二〇十七
ゾ 哥後十三〇九、十一 西 〇十二
ツ 可一〇三
子 撒前四〇十
ラ 撒前四〇九、五〇十五 彼 哥前一〇七
ム 哥前一〇八 腓一〇十 撒前五〇廿三 撒後二〇十七 勒壹三〇廿、廿一
イ 腓一〇廿七 西二〇六
ロ 撒前二〇十二
ハ 西一〇十一
ニ 羅十二〇二 弗五〇十七
ホ 弗五〇廿七
ヘ 哥前六〇十五、十八 腓五〇三 西三〇五
ト 羅六〇十九 哥前六〇十五、十八
チ 哥前十五〇卅四 加四〇八
リ 弗四〇十七、十八 後一〇八
ヌ 羅一〇廿四 五、十八 西三〇
ル 利十九〇十一、十三 哥前六〇八
チ 撒後一〇八

れ神の我儕を召きたるゝ我儕は汚たる事を行ふを要るゝ非ず潔からん事を要め給ふなり
八 是故ゝ慢る者ゝ人を慢るゝ非ず其聖靈を爾曹ゝ賜ひし神を慢るなり○ 九 兄弟を愛する事ゝ就てゝ我なんぢらゝ書贈るゝ及む ず善ゝんぢら互ゝ愛することを親く神より教られたれむ也 十 爾曹マケドニヤの全地なる諸の兄弟ゝ此の如く行へり兄弟よ我儕勸るゝ爾曹ます〳〵此の如く行ひ 十一 かつ安靜ならんことを務め己れ事を行ひ手づから工をなし曩ゝ爾曹に我儕が命ぜし如せんこと也 十二 此ゝ爾曹外人ゝ向て正く行ひ亦自ら乏ことと無らん爲ゝり○ 十三 兄弟よ爾曹の憂慼ゝ望ゝき他人の如ならざらんことを欲ふが故ゝ我儕すでゝ寢れる者ゝ就てゝ爾曹の知ざるを好ます 十四 我儕もしイエスの死て甦りし事を信ずるゝ為ばイエスゝ由る所の既ゝ寢れる者を神かれと偕に携へ來らんことをも信ずべき也 十五 われら主の言に託て爾曹ゝ告ん主の臨らん時ゝ至り活て存れる我儕ゝ直ゝ寢れる者よりも先だゝじ 十六 ろれ主號令と使長の聲と神の筩を以て自ら天より降らん其時キリストゝゝ在て死し者先に甦へり 十七 後ゝ活て存る我儕かれらと偕ゝ雲に携へられ空中ゝ於て主ゝ遇べし斯て我儕いつまでも主と偕ゝ居ん 十八 是故ゝ此等の言を以て互ゝ慰むべし

第五章 兄弟よ時と期ゝついてゝ我なんぢらゝ書贈るゝ及む ず 二 ろゝ主の日れ來ることゝ盜人の夜きたるが如なることを爾曹詳細ゝ知む なり 三 人々平和無事なりと言んとき亡滅忽ちゝ來らん姙る婦ゝうの劬勞の來る如なるべし人々絶て避ることを得じ 四 然む兄弟よ爾曹幽暗ゝ居ざ ず其日盜賊の來る如く爾曹ゝ來ることなし 五 爾曹みな光の子ども晝れ子ども也わきら夜ゝ属るもの暗ゝ属る者ゝ非ず 六 然ば我儕他人の寢るが如く寢ることをせず醒て慎むべし 七 寢る者ゝ夜ねぶり酒ゝ醉ものゝ夜ゝふ也 八 晝に属る我儕ゝ信と愛の護胸をき救の望を冑として慎むべし 九 うゝ神われらを怒に遭せんと定たるに非ず我儕の主イエス

キリストゝ由て救を得しめんと定め給ひたれむ也 十 かれ我儕の爲ゝ死たり是我儕をして醒たるも寢れるも彼と偕ゝ生しめんとて也 十一 是故ゝ爾曹常ゝ行る如く互ゝ慰め又おの〳〵の德を相建べし○ 十二 兄弟よ我儕なんぢらゝの中ゝ勤勞かつ主ゝ在て爾曹を治め爾曹を教る者を顧み 十三 彼等の工ゝ緣て厚く之を愛すべし爾曹たがひゝ親睦すべし 十四 兄弟よ我儕なんぢらゝ勸む妄行者を儆め氣餒者を慰め懦弱者を扶け衆の人ゝ向て忍ぶべし 十五 なんぢら慎みて惡を以て惡に報ることなく常に互に善を追また衆の人にも善を及すべし 十六 常に喜ぶべし 十七 斷ず祈るべし 十八 凡の事感謝すべし是イエスキリストに由て爾曹に要め給ふ神の旨なり 十九 靈を熄てと勿れ 二十 預言を藐視こと勿れ 二十一 凡のこと察へて其善ものを守り 二十二 諸の惡事の類に遠かるべし 二十三 願くゝ平安の神ゝんぢらを全く潔し又なんぢらの全靈全生全身を守りて我儕の主イエスキリストの臨らん時ゝ咎なからしめ給んことを 二十四 爾曹を召く者ゝ誠信なる者ゝり彼てゝ事を成たまん 二十五 兄弟よ我儕の爲に祈るべし 二十六 ゝんぢら潔き接吻を以て諸の兄弟の安を問べし 二十七 わきら主に由て願ふ爾曹この書を諸の兄弟ゝ讀聞せんことを 二十八 我儕の主イエスキリストの恩爾曹と偕に在んことをアーメン

新約全書帖撒羅尼迦前書　終

イ 哥後一〇十九
ロ 撒前一〇一
ハ 哥前一〇三
ニ 撒前一〇二、三、三〇六、九
撒後二〇十三
ホ 哥後七〇十四、九〇二　撒前二〇十九、廿
ヘ 撒前一〇三、二〇十四
ト 腓一〇廿八
チ 撒前二〇十四
リ 默六〇十
ヌ 默十四〇十三
ル 撒前四〇十六　羅十四
ヲ 時七十九〇六　撒前四〇五
ワ 羅二〇八
カ 來十〇廿七、十二〇廿九
默廿一〇八
ヨ 撒後三〇七
甲 廿三〇二　默二〇十九
撒後二〇八
タ 腓三〇十九　彼後三〇七
レ 時八十九〇七
ソ 時六十八〇廿五
ツ 撒後一〇五
子 撒前一〇三
ナ 彼前一〇七、四〇十四
イ 撒前四〇十六
ロ 太廿四〇廿一　可十三〇廿七　撒前四〇十七
ハ 太廿四〇四　啓五〇六　約壹四〇一
ニ 太廿四〇四　啓五〇六
ホ 提前四〇一

新約全書使徒パウロテサロニケ人に贈れる後書

第一章　パウロシルワノテモテ我儕の父なる神および主イエスキリストに在テサロニケ人の教會へ書を贈る　二願くは我儕の父なる神及び主イエスキリストより爾曹恩寵と平康を受よ○　三兄弟よ我儕なんぢらに就て恒に神に感謝すべき也これ理に合ふこと也ろは爾曹の信仰彌増かつ爾曹おの〳〵互に愛すること篤く成たれゝ也　四是故に我儕なんぢらの爲に神の教會の中に誇る蓋なんぢら窘迫と患難の中に在て忍耐と信仰を存ゝなり　五これ神の義　鞫の表なり爾曹をして神の國に入べき者となさんめん爲なり爾曹いま神の國の爲に患難を受　六蓋なんぢらに患難を加る者には患難を以て報　患難を受る爾曹には我儕と偕に平安を得ることを以て報るは神の公義なれゝなり此事は主イエス火燄の中にて其能力の諸使と偕に天より顯れん時にあり○　八即ち神を識ざる者および我儕の主イエスキリストの福音に服ゝざる者に報を予ふ　九かれら主の面と其勢の榮光より離れて窮なく亡る罰を受ん　十其時は即ち主の臨りて其聖徒に由て榮光をうけ諸の信者に由て讚を得ん其日なり爾曹も我儕の証を信ずる者なり　十一此に就て我儕つねに爾曹の爲に祈るは我儕の神爾曹をして召を受べき者となし又能力を以て爾曹の諸の善願と信仰の行を成就せしめん事なり　十二是われらの神と主イエスキリストの恩に由て我儕の主イエスの名なんぢらの中に榮られ亦なんぢら彼に在て榮られん爲なり

第二章　兄弟よ我儕の主イエスキリストの臨り給ふこと及び我儕ゞ彼の所に集ることに就ては我儕願ふ　二爾曹あるひは靈により或は言に由あるひは我が贈れるに似たる書に由て主の日いま既に來るとて心を動かし且擾ること莫らんことを　三誰なりの法を以てするとも爾曹欺かるゝこと勿れ蓋さきに道を離るゝ事